

第45回全国公民館研究集会兵庫大会
第70回近畿公民館大会兵庫大会・第66回兵庫県公民館大会

【本大会のテーマ】

「地域の“幸” 民間を目指して

～全ての人のウェルビーイングのために公民館ができること」

○令和4年8月に政府は、全ての人のウェルビーイング（心地よく幸せを感じる
こと）の場所について、公民館等の社会教育施設の機能強化、デジタル社会への
対応などの方向性を整理されました。

最近、国の行う幸福度調査についても、「地域との繋がりを感じたとき」とい
う回答が上位にある中で、より一層の公民館の充実を図る。

【文部科学省 総合教育政策局より】

○公民館を「地域と学びの実践プラットフォーム」とするために、地域における
学びと実践のコーディネーターとなる社会教育士が繋がり役となり、市民へ
様々な情報提供を行い、また、公民館の運営自体にも参画しながら運営していく。

また、全国的にも公民館では、未だ Wi-Fi 整備が無い館が6割を占めており、
今後の ICT 化の拡大のため国も含めて検討している。

さらには、社会教育施設の老朽化問題も深刻化しており、全国公民館の約6割
が建築から40年を経過している状況にある。その中で、社会教育施設の複合化
を進めている自治体もある。（公民館と図書館、地域交流センターと子育てセン
ターなど）

このような問題点に向けた自治体向け相談窓口も開設しているので是非、活
用してもらいたい。

【パネルディスカッション】

～地域と公民館～ 「みんなの居場所づくりのために」

パネリスト

①島根県立隠岐島前高等学校 吉田 百花さん

1ー公民館の印象

馴染みがなく、どこか役場に似ている。入りにくい。お年寄りの拠り所のイメ
ージ。

2－どんな場所になれば良い？

受付みたいな窓口だけでなく、部屋の中央に職員の席があり、話しかけやすいような場所。そして、子どもと大人と一緒に学べるイベントがあればより良い。

②県立加古川東高等学校 下浦 瑛資さん

1－高校生にとっての公民館とは

行く理由が見当たらない。何をしているのかいまいち分からない

2－ボランティアを通じて感じたこと

公民館で行う「子ども学習教室」の先生として参加したことがきっかけで、小学生と触れ合う時間ができ、また、たくさんの刺激をもらった。このような年代を超えた繋がりを築けるイベントを実施できることも公民館事業の強みと感じた。

3－今後の公民館としてのあり方

高校生は、公民館に興味がないわけではなく、何をしているのかが分からない。気軽に行っても良いものなのか？どうなのか。この考えを払拭するためにも、学校などに発信してもらい、一緒に学べたり、過ごせたりするイベントがあることが分かれば、自然と高校生から歩み寄ると思う。

【総括】東京大学大学院 教育学研究科 牧野 篤

【社会教育の役割】

新・教育振興基本計画（2023年～2027年）にも、社会教育による「学び」を通じて人々の「つながり」や「かかわり」を作り出し協力し合える関係としての土壌を耕しておくことが求められるという文言が加わったことで、より、「人と人のつながり」の部分が重要視されるようになってきたと思われる。